

令和5年度 公立大学法人尾道市立大学  
第3回理事会・経営審議会 議事要旨

1 日時 令和6年3月27日(水) 午後1時56分～午後3時12分

2 場所 尾道市立大学E棟1階120会議室

3 議事

- (1) 令和5年度第3次補正予算(案)について
- (2) 令和6年度予算(案)について
- (3) 公立大学法人尾道市立大学事務分掌規程の改正について
- (4) 公立大学法人尾道市立大学文書事務取扱規程の改正について
- (5) 公立大学法人尾道市立大学第3期中期計画(案)について
- (6) その他

4 審議結果等

- (1) (第1号議案) 令和5年度第3次補正予算(案)について

【説明内容】

令和5年度第3次補正予算(案)について、説明。

【主な質疑と応答、意見】

●今年度の入試の志願者はどのような状況だったのか。

○経済情報学科が昨年度に比べるとかなり減少し、日本文学科は昨年度が減っていたので逆に増加した。美術学科は微減といった状況だった。毎年の増減はあるが少子化ということもあり徐々に減少している。

●入学者の一定の割合を尾道市在住者にするという方針があるのか。学生が減っているのであれば、尾道市立なのである程度の枠を設けるということはできないのか。経営課題として検討してほしい。

○入学試験の成績で合格者を決定するので尾道市在住者を特別に扱うことはないが、経済情報学科の推薦入試では尾道市内推薦や商業・総合学科等推薦では尾道市内の該当する高校からも出願があり、成績の条件はあるが一定数の定員を設けている。年内に進学先を決める学生が増えているが、本学は定員との関係もありすぐに推薦の枠を増やすことは難しいが高大連携とも絡めて検討していきたい。

【審議結果】

第1号議案は、原案通り承認された。

- (2) (第2号議案) 令和6年度予算(案)について

【説明内容】

令和6年度予算(案)について、説明。

**【主な質疑と応答、意見】**

●新図書館についていろいろな意見があったが建設することになった。学生や市民に喜ばれるような図書館にしてほしい。各地で図書館運営を民間に任せて人が集まるようなことをしているが、新図書館でも検討してはどうか。柔軟な発想を期待する。  
○報道されてはいないが、建設は合併特例債を利用して尾道市の実質の負担が少なくなるようにしている。運営は大学直営で行うことにしているが、図書館には市民の方が使っていただける共用のスペースも作るので、活用いただけるものと考えている。

**【審議結果】**

第2号議案は、原案通り承認された。

(3) (第3号議案) 公立大学法人尾道市立大学事務分掌規程の改正について

**【説明内容】**

公立大学法人尾道市立大学事務分掌規程の改正について、説明。

**【主な質疑と応答、意見】**

●教員になる学生がいるということか。  
○経済情報学科が商業と情報、日本文学科が国語、美術学科が美術の教員免許が取得できる。

**【審議結果】**

第3号議案は、原案通り承認された。

(4) (第4号議案) 公立大学法人尾道市立大学文書事務取扱規程の改正について

**【説明内容】**

公立大学法人尾道市立大学文書事務取扱規程の改正について、説明。

**【主な質疑と応答、意見】**

特になし。

**【審議結果】**

第4号議案は、原案通り承認された。

(5) (第5号議案) 公立大学法人尾道市立大学第3期中期計画(案)について

**【説明内容】**

公立大学法人尾道市立大学第3期中期計画(案)について、説明。

## 【主な質疑と応答、意見】

●資金計画で前中期目標期間からの繰越金5億5百万円というのは、前中期目標期間繰越積立金等取崩収入のことでよいか。

○お見込みのとおりである。

●計画期間が6年間となっているが文部科学省からの指示等で決められているのか。

○地方独立行政法人法の規定により6年間となっている。

●第2期中期の総括をしていくことになるが、例えば大学院の定員の未充足の原因と対策について考えると、社会のニーズを取り入れて学生を受入れていくことの検討も必要ではないかと思われる。

○大学院の定員未充足は早くから指摘されており認証評価でも指摘されたところであるが、大学院に相当する学力を有する学生を受入れるという方針であった。現在の状況を見ると、社会人や留学生をより広く受け入れていく必要があると各研究科に伝えている。地域のニーズということでリスキリングということがよく出るが、日文や美術ではふさわしくないとと思われる。経済情報の情報などは関係してくるので社会に対してアピールできるようなポイントを作っていきたい。

●社会人や留学生のニーズは広く多いと思われ、それに対応するとすれば教員に追加的負担がかかる可能性があるので、個々の教員ではなく組織として対応することが必要となる。社会人を受け入れるのであれば休日・夜間の開講や長期履修制度への対応もするのかという実際的问题もある。あまりに門戸を広げると後が大変になるので、今の大学の人的資源を考えながら受け入れていけばいいと思う。

○今のところマンパワーの問題もあり、土日の開講は難しいと考えている。教育する側からすると「修士」にふさわしい学力を求めていかざるを得ない。

●一度に変えるのは難しいと思うので、少しずつでも受け入れを広げていくことがいいのではないか。

○教員の過度な負担とならないようにしながら、定員充足を目指していきたい。

●今回数値の指標があげられているが、現在データを取っていて、実現可能なものとなっているのか。

○例えば学生アンケートは現在も実施しているが、一番の問題は回収率が低いことで学生が回答しやすいような工夫をしている。

## 【審議結果】

第5号議案は、原案通り承認された。

その他報告事項等

特になし。

議事終了